

2022年度 人間学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う	評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
1.募集① 定員充足率100%をめざす。定員充足に向けて学部全体で取り組む。HPコンテンツの充実を図る。各学科の教育活動の工夫、教員の努力をアピールできるよう検討する。	OC改善、入試委員会における募集戦略についての会議、WGによるOC改革案の検討など。	OC内容 受験生サイト(各学科動画) 入試パンフレット	以下のように、定員充足したのは心理学科のみであった。 コミ社 36名(60%) 児童 90名(内国際こどもコース14名)(69.2%) 福祉 49名(44.5%) 心理 105名(105%)	2023年4月1日 入学者数	年内入試までに80%の充足がかなうよう前期中の広報やOCの充実を図る。入試委員会のみならず各学科で将来構想を検討していく。各学科の状況を学部全体で共有する。
1.募集② OCのガイダンス内容を精査し、学部の魅力をアピールする。学生の協力を得て、生き生きした大学紹介ができるようにする。OCプログラムについて学科の魅力を紹介するツアーを開催する。	学科ガイダンスのpptの工夫、ガイダンス時に学生も参加しプレゼンを行う、「学科紹介ツアー」を開設、各学科に関連する施設などを教員自身が魅力的に紹介する。また、学科紹介の一部の場所で学生も参加し、参加者を触れ合う。	2022年度すべてのOCで実施。	学科ガイダンスもわかりやすかった、学科紹介ツアーは少ない人数でかかわることができ、話しやすかったと好評であった。	入試G:OC参加者数、参加者アンケート	2023年3月からOCに新しい企画を取り入れる(オープニングセレモニー)。
1.募集③ 総合型選抜、指定校推薦で受験生を集められるようアドミッションオフィスと連携する。	指定校数を増やす。希望があれば指定校枠を増やすなど連携して対応。	アドミッションG	希望があった高校からは受入れ	AO記録、入試委員会議事録	指定校を大幅に増。
1.募集④ 児童発達学科新コース国際こどもコースの広報を3月OCより開始する。ガイダンス、個別相談など充実させる。	新コース設置により、前年度よりも総合型選抜の人数が増加した。9月総合型選抜には児童44(うち国際子ども9)が承認、また18名のコース希望者が入学予定である。	定員を20名前後、うち18名	前半入試ではOCでも問い合わせが多く、募集戦略上効果があったといえる。2022年度入学者75名→2023年度90名	入試G:OC参加者数、参加者アンケート、学科個別相談	国際こどもコースの学生実態を捉えつつ入試広報にて情報発信を行う。
2.教学① 退学率が減少するよう努める。2020年度に近づけ2.0%をめざす。人間学部は学科特性が強いことから各学科で退学率を減少させるための方略を具体的に立案し、対応する。教務委員会、学生委員会の連携を円滑にとれるよう学科会議で学生について取り上げるようにする。	学部FDで退学率の減少に向けての取組について討論。後期には職員からも話を聞き、情報を共有するとともに教職協働についても検討した。	教務委員会 学籍状況報告	全体では3.2%。人間学部の場合は除籍数が多く純粋な退学率としては2.3%であった。	教務G資料	除籍につながる学生の状況把握が不十分である。不登校から除籍につながっていくが、不登校の理由が経済的理由、大学への不適應など多様な要因が考えられる。不登校気味になった際にどのように学生とつながっていくかが課題。休学者が復学した際に個別対応を行うなど、卒業できるよう支援を行いたい。
2.教学② 教学マネジメント充実を図るために3Pの見直しを行っていく。各学科で教育の質向上を図るための評価方法と連携させていく。	すべての学科でDPの見直しを行い新たに作成。	各学科会議 教務委員会	今後、DP到達度評価と連携できるようなDPの文言を精査した。	教務委員会議事録、全学教務委員会議事録、HP	アセスメント可能なCP設定に向けて検討を始める。
2.教学③ 対面授業を充実させるために、感染防止対策、学生の健康観察指導を引き続き徹底する。また、履修者数の多い科目はオンライン授業も併用していく。オンライン(オンデマンド)の効果について検証する。	大学共通科目以外は数科目が遠隔授業であった。	教務委員会	教務委員会にて遠隔授業について検討。動画を個々の学習速度や反転授業に生かすなど効果的に活用されている科目など検討。	教務委員会	5科目(心理2科目、人間福祉3科目)を遠隔授業として設定。

2023年度 人間学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1.募集① 定員充足率100%をめざす。定員充足に向けて学部全体で取り組む。長期的視野から学科の在り方を検討する。特に、コミュニケーション社会学科、人間福祉学科の今後の戦略を学部全体の問題として検討していく。
1.募集② OCのガイダンス内容を精査し、学部の魅力をアピールする。卒業生、在学生の協力を得て、生き生きした大学紹介ができるようにする。演習など体験学習の充実をアピールする。OC参加者の出願に状況を捉える試みを行う。
1.募集③ 総合型選抜、指定校推薦で受験生を集められるようアドミッションオフィスと連携する。指定校推薦枠の増加に伴う効果について検証する。
2.教学① 退学率2.8%をめざす。学科ごとに学生把握に努め、特に不登校気味の学生に早めにコンタクトをとれるようにする。
2.教学② 教学マネジメント充実を図るためにCPの見直しを行っていく。アセスメント可能な方略を検討する。
2.教学③ 免許・資格養成課程をもつ学科は、確実に取得に結びつくよう履修指導を徹底する。児童発達学科では1%増、人間福祉学科では国家試験合格率を1%増をめざす。
2.教学④ 人間福祉学科は募集力向上のための教育課程変更等検討を開始する。

2022年度 人間学部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う	評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
2. 教育④ 免許・資格養成課程をもつ学科は、確実に取得に結びつくよう履修指導を徹底する。児童発達学科では1%増、人間福祉学科では国家試験合格者を1%増をめざす。	人間福祉学科の国家試験対策講座について、講師と専任教員が連携をとりながら学生の意欲持続、合格へ向けての対策などを行う。 児童発達学科免許・資格取得についての不安やコロナ禍における実習時期、実習内容の変更に対して個別に丁寧に対応していく。	教務委員会人間福祉学科実習指導室、実習委員会 児童発達学科実習指導室、実習委員会	<人間福祉学科の国家資格合格率> 社会福祉士:49.0%(全国平均44.2%) 精神保健福祉士:75.0%(全国平均71.1%) 介護福祉士:100%(全国平均84.3%) <児童発達学科免許・資格取得者数及び取得率> 保育士資格取得者数:104(94.5%) ⇒77/77(100%) 幼稚園免許取得者数:126(96.3%) ⇒97/101(96.0%) 小学校免許取得者数:51(92.7%) ⇒35/36(97.2%)	教務委員会人間福祉学科実習指導室 児童発達学科実習指導室	学生の多様化により、希望する免許・資格も多様になってきている。学生個々の満足度をあげることも退学率減少に関係すると考えられる。キャリアとも連携しながら対応していきたい。
2. 教育⑤ 教学マネジメント構築に努める。入学前教育、基礎学力テスト、PROGなどを連携させながら学生の学修について把握する。各学科のDPの見直しを図るとともに、学生側のDP到達度チェックシートの科目について再検討を行う。認証評価の指摘事項への対応も含む。	DPの変更を検討。	教務委員会各学科会議	全学へDP案を提出した。		
2. 教育⑥ 児童発達学科では国際こどもコース設置に関連してカリキュラム変更を行う。その際、各免許・資格養成課程の科目のスリム化を図る。	国際こどもコースに関連する監督官庁への変更届を提出する。小学校教員養成課程の科目スリム化を図る。	学科教務	保育士養成課程は9月末、教員養成課程は3月末に提出済み。	保育士養成課程変更届 教職課程変更届	国際こどもコースの新入生に対し、指導方法等を検討していく
3. 国際化 留学プログラムの実施に向けて準備を進める。国内でできる交流プログラムの前年度同様、模索する。児童発達学科の国際こどもコースの実習先開拓、キャリア支援の準備をしていく。	海外短期FW 心理学科+人間福祉学科および、児童学科のプログラムを実施。	国際交流委員会	実施するための方略を検討し、学生参加も募った。	国際交流委員会	参加者の報告会などでアピールし、次年度の参加者を増やしていく。
4. キャリア 就職率:各学科で前年度比1%増をめざす。前年度の方法をさらに充実させる。具体策としてキャリアセンターと学生が早期に信頼関係を築けるよう、3年生からキャリアセンターからの連絡をオンラインで発信するなど就活意識を醸成していく。コミュニケーション社会学科は、本郷キャンパスで就職支援を受けることができるので、十分に活用できるよう支援する。教員から積極的に働きかけ、学生が動けるよう支援していく。 4年生には、キャリアセンター教員が連携をとりつつ、学生の不安や迷いに寄り添いながら満足できる就職内定を得られるよう支援する。また、公務員講座等専門職就職については、参加を促していく。オンラインを活用し、大学・在校生と卒業生との絆をさらに深めていき永久サポート大学に注力する。	2023年4月12日現在 就職内定率 コミュニケーション社会学科:93.5%(前年度同時期87.5%) 人間福祉学科SW:93.2%(同94.3%) 人間福祉学科福祉M:86.2%(同90%) 児童発達学科:100%(同96.8%) 心理学科:97.7%(同87.3%)	キャリア委員会	人間福祉学科以外では目標を達成した。専門職内定率では児童発達学科、心理学科で100%となり、希望が実現している。人間福祉学科でも92.6%であり9割を超えている。学生が就職先の希望を実現できたといえる。	キャリア委員会	人間福祉学科福祉マネジメントコース、SWコースの就職活動について注視していく。学科教員とキャリアセンター職員の連携をより緊密に図っていく。

2023年度 人間学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
3. 国際化 留学プログラムの実施、参加者増(コミ社は独自プログラムの実施、他は各5名増)に向けて準備を進める。
4. キャリア 就職率:児童発達学科、心理学科で前年度並みをめざす。また、コミュニケーション社会学科、人間福祉学科で1%増をめざす。前年度の方法をさらに充実させる。3年生にはTeamsなどを活用し、積極的に情報発信を行う。4年生には、キャリアセンター職員がゼミ訪問などを行い、学生との関係性を築く。教員が連携をとりつつ、学生の不安や迷いに寄り添いながら満足できる就職内定を得られるよう支援する。また、国家試験対策講座、教職、公務員講座等専門職就職については、参加を促していく。オンラインを活用し、大学・在校生と卒業生との絆をさらに深めていき永久サポート大学に注力する。
5. 研究 科研費申請数を前年度(6件)より2件増やす。学内共同研究費(前年度3件)、学長裁量経費(前年度1件)の獲得本数を前年度並みとする。

2022年度 人間学部(結果)

PLAN(計画)		DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。		D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
5. 社会連携(地域連携改め) 人間学部では4センターの活動について特に取り組んでいきたい。各センターの特性を改めて解析し、コロナ禍での活動、プログラムの見直しを図る。特にオンラインを活用した内容を充実させていく。前年度の活動は継続していく。またTJUPについては、単位互換、プログラムへの講師など人間学部の専門性を生かした形でできる限り協力する。また、実学としてセンターの活動は教育活動にも有効であると考え、学生の参画を増やせるよう工夫していく。活動内容は入試広報にも活用する。		TJUPを活性化させた。学内の各領域の専門家が講師として協力するなどした。	社会連携研究所資料	評価	評価の理由/課題/根拠データ	
6. 研究 科研費申請数を前年度(6件)より2件増やす。学内共同研究費(前年度3件)、学長裁量経費(前年度2件)の獲得本数を前年度並みとする。		科研費6件申請1件採択 学内共同研究費3件採択 学長裁量経費1件採択	総合研究所資料	様々な社会連会活動を行うことにより、補助金獲得につながった。	社会連携研究所資料	
				前年度より採択数は減少。	総合研究所資料	

2023年度 人間学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。